

留学報告書

アリゾナ大学植物科学科
種田 修三

3月にアメリカでコロナ騒動が始まって3ヶ月目になった。アリゾナ大学ではその時から緊急以外の研究活動が停止になっており、それ以来研究室には訪れていない。オフィスへの出入りも禁止である。食料品の買い物以外では全く外に出ず、家にずっとこもりっきりの生活だ。私は卒業に必要な全ての実験が終わっているため、論文の執筆作業を行う日々である。さらにこの報告書を書いている6月初旬現在、アメリカ各地でデモや暴動が起きており、アリゾナでも夜間外出禁止令が発令されている。そのため、四六時中家で論文を書き、本を読み、寝て食べて、たまーに筋トレをして、という生活を丸3ヶ月続けていることになる。自粛が始まった当初は趣味の剣道や野球などでストレス発散ができず、買い物や友人と遊ぶなどの気分転換もできず、しらずしらずストレスが溜まっていた。スーパーに行ってもトイレットペーパーやパン、お米が見つからず、一時はどうなるかと案じていた。現在ではこうした生活にもすっかり慣れ、物資の供給も十分にあるようで何不自由なく過ごせている。むしろ家で誰にも会わず毎日過ごすことに慣れすぎてしまい、スーパーに行くだけで人が多くてひどく疲れてしまう。とはいっても混雑してるわけではなく、巨大なフロアに2、30人の買い物客がいるだけなのだ。



写真) 自粛中に気晴らしとして人生で初めてうどんを打ってみた。ツーソンは空気が非常に乾燥しているため、レシピ通りに作っても水分が飛んでしまったためか、生地が薄く伸びず極太の麺になってしまった。今では改良を重ね、うどんに近くなってきている。

私にとって2020年上半期はこうした芳しくないニュースばかりでもなかった。4月にはアメリカ真菌学会の大学院生奨励賞(MSA graduate fellowship)を頂けることになった。ちなみに真菌とは私が研究しているカビやきのこのことである。60年以上の歴史があり、現在活躍している真菌研究者の多くが受賞しているこの賞は毎年全米で2名にしか与えられないため、非常に嬉しいことであった。この賞は大学院生にいくらかの研究費を出してくれるのだが、研究はコロナの影響で完全に停止しているので、これからどうなるのやら。。。もう一つのよかったことであるが、今学期に投資家の方が教えている entrepreneurship(起業家精神)に関する授業を取ったのだが、今年に新しく開講されたこともあり生徒が私一人だけであったため、投資家の方に個人メンタ

一をしていただけることになったことだ。普段から競争が激しいとは言えない学問分野を学ぶ私にとって、プロジェクトの立案から行動に移すまでのスピードや新たな問題に対するチャレンジ精神など、驚きの連続だった。コロナの騒動においても、彼は社会のための起業家精神 (social entrepreneurship) を発揮し、大学と提携しアリゾナのスーパーに消毒液を供給したり、コロナ騒動で困っていたり落ち込んでいる学生間のソーシャルネットワークを作ったりと私の想像を遥かに超えるようなスピード感で社会のためになるようなプロジェクトを進めていった。彼は失敗することを全く恐れずまず立ち向かっていく。「当たり前のことをやっているだけだよ」と彼はいつも言う。なにかと周りを気にしてしまう私には良い先生である。すでに授業は終了しているのだが、私が卒業するまで一緒に働きたいと言っていたが、現在もリモートワークながらいくつかのプロジェクトに関わっている。これからどのような展開を見せていくのか非常に楽しみである。当たり前のことを当たり前と思ってできるように頑張りたい。

これから卒業までの半年間生活がどのように変わっていくのか想像ができないが、無事健康に毎日を過ごせればと思っている。日本にいる家族友人はもちろん、船井財団の方々や友人も元気でいてほしいと願うばかりである。